

第 33 回日本静脈麻酔学会
スイーツセミナー (SS)



座長

齋藤 淳一 先生

弘前大学大学院医学研究科
麻酔科学講座
教授

演者

中澤 圭介 先生

日本大学医学部
麻酔科学系麻酔科学分野
診療准教授

区域麻酔も population から
individual へ
— 標準化の先にある患者ごとの安全と鎮痛 —

▶ 日時

2026 年 11 月 27 日 (金)
15:30~16:10

▶ 会場

第 1 会場
東京大学 本郷キャンパス
伊藤謝恩ホール
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

スイーツセミナーについて

※現地開催のみ。

※事前予約、当日の整理券配布はございません。

※詳細は学会ホームページにてご確認をお願いいたします。





区域麻酔も population から individual へ —標準化の先にある患者ごとの安全と鎮痛—

超音波ガイド下神経ブロックでは、PLAN A blocks に代表される基本手技の標準化が進み、区域麻酔をより再現性高く実施するための教育的基盤が整備されてきた。区域麻酔は鎮静や全身麻酔と組み合わせる周術期管理の一要素でもあり、特に監視下麻酔管理（MAC）では、神経ブロックで必要な鎮痛を確保できれば、鎮静薬やオピオイドの増量を避けやすくなる。呼吸予備能が低く鎮静薬への感受性が高い高齢者では、とりわけ重要な視点である。

一方、手術侵襲や術後の回復目標は患者ごとに異なり、術者の経験も一様ではない。静脈麻酔が population-based なモデルを出発点に個々の患者へ調整されるように、区域麻酔も標準化を土台として、患者と術者に合わせて調整できるのではないか。

本講演では、神経そのものを唯一の標的とせず、周囲の筋膜面や筋区画を利用するという発想を、体幹部の傍脊椎・横突起間（ITP）・脊柱起立筋膜面ブロックの関係、肩関節手術での中斜角筋内への投与、口腔外科での外側翼突筋を標的とする方法を例に、自験の臨床研究を交えて紹介する。ちょっとした tips が初学者にとって手技への障壁を下げ、神経ブロックを身近なものにするきっかけになるかもしれない。一方、標的を変えることで、鎮痛効果や非標的神経への影響、局所麻酔薬の全身曝露など、新たに検証すべき課題も生じる。標準化された手技を、患者ごとに安全性と鎮痛効果のバランスを見ながらどう使い分けるかを考えたい。

日本大学医学部 麻酔科学系麻酔科学分野
中澤 圭介

